

後期高齢者医療制度 資格確認書を送付しました

マイナ保険証の保有状況に関わらず、後期高齢者医療制度に加入している全ての方に「資格確認書」を送付しました(普通郵便)。

8月1日(金)以降に医療機関などで受診する際は、送付された新しい資格確認書か、マイナ保険証を提示してください。



送付する資格確認書

■負担割合を変更している場合があります

2024年中の所得状況などを基に負担割合(1割・2割・3割)を判定していますので、一部負担金の割合が変わっている場合があります。

■有効期限切れの保険証、資格確認書の処理方法

- 自身で廃棄
- 保険医療課または各支所窓口係に返却

※後期高齢者医療の「限度額適用・標準負担額減額認定証または限度額適用認定証」を持っていた方は、資格確認書の任意記載事項欄に適用区分などが記載されています。

問保険医療課 医療保険年金係
☎お太助フォン 42-5619 📠42-2130

安芸高田市農業振興地域整備計画 対象農用地の表示方法を変更します

「安芸高田市農業振興地域整備計画(農振)」とは、総合的に農業の振興を図ることが必要であると認められる地域について、農業の振興や地域の基盤整備、農業施設の整備などを計画的に推進するための地域(対象農用地)を定めたものです。《対象農用地》 ※下記のいずれかに該当する土地

- ①10ha以上の集団的農用地
- ②土地改良事業などの施工区域内の土地(ほ場整備事業実施)
- ③上記①②の土地の保全、または利用上必要な土地改良施設(農道、用排水路など)
- ④農業用施設用地(2ha以上のもの、または①②に隣接するもの)
- ⑤地域の農業振興を図る観点から農用地区域に含める必要がある土地(中山間地域等直接支払、多面的機能支払の交付対象となっている農用地など)

《変更日》

8月上旬予定

《変更内容》

■吉田町、美土里町、高宮町、甲田町、向原町

	変更前	変更後
表示内容	除外された地番のみを表示	指定地番を表示

■八千代町

	変更前	変更後
表示内容	指定地番を表示	指定地番を表示 (集団性のない農地を除外)

問地域営農課 農地利用係
☎お太助フォン 47-4021 📠47-4021

自宅の防犯対策機器の購入費用を補助します



近年多発している特殊詐欺や、いわゆる「闇バイト」に関する強盗事件などの対策として、自宅に防犯機器を設置する費用の一部を補助します。

《補助対象の防犯機器》

- 屋外防犯カメラ
- モニター付きインターホン
- 防犯機能付電話機(固定電話に接続する通話録音機器も含む)

《補助対象者》 ※下記の全てに該当する方

- 本市に住民票がある方
- 4月1日(火)以降に対象の防犯機器を購入した方
- 市税などを滞納していない方

《補助金額》

購入費用と設置費用を合わせた額の2分の1

※上限1万円

《申請方法》

必要事項を記入した申請書と、機器の購入領収書、設置状況が分かる写真などを危機管理課または各支所に提出してください。

※申請書は本庁・各支所の窓口で受け取れます。市ホームページからもダウンロードできます。

《申請期間》 7月1日(火)～12月26日(金)

※予算額に達し次第終了します(先着順)。

問危機管理課 防災生活安全係
☎お太助フォン 42-5625 📠42-4376

生徒が決める 100万円事業

向原高校
活用報告

(高校応援補助金)

向原高校では、昨年に引き続き「魂フェス」を開催。今年は“恥ずかしいか、青春は。”をテーマに学校に活気を取り戻すべく全校生徒一丸となって取り組みました。当日は卒業生LIVEなどのステージイベントやキッチンカーの出店などで大いに盛り上がり、約500人が来校しました。

向原魂フェス

～文化祭ver.～

開催日
6/21
(土)



校内アンケートでフェス開催の意見が多かったのと、地域の方々とも楽しみを共有したいという思いから、魂フェスの開催に決めました。今年はより盛り上げるために文化祭と併せて実施。内容や予算、運営など多くの課題に直面しましたが、先生方の支えもあり、当日は多くの方に来場していただけて本当にうれしかったです。



生徒会長
佐々木 昊さん

問政策企画課 地方創生推進係
☎お太助フォン 42-5612

今日の

市長コラム

終戦から80年

こんにちは。市長の藤本悦志です。

この夏、終戦から80年という節目を迎えます。

私自身は幼い頃から平和教育を受け、戦争に関わるさまざまな講話を聴いて育ちました。その中で強く印象に残っているのは、原子爆弾投下直後に「安芸高田市内(旧高田郡)からも晴れ渡った空に大きなきこ雲が見えた」という証言です。

80年という年月の経過とともに、こうした戦争の経験談を話せる人は少なくなりました。だからこそ、人々が戦争というものを自分事として捉え、そ

の歴史をしっかりと未来に継承することが、悲劇を二度と繰り返さないために重要だと考えています。

世界においては、今でも局地的な戦争や紛争によって尊い命が失われ、戦火の中で暮らす人々がいます。その衝突は、民族や領土の問題など原因は多岐にわたります。私たちは、こうした状況から目を背けるのではなく、過去の経験とそこから得た学びを生かし平和への声を上げ続けなければなりません。

平和への強い願いが深く刻まれた被爆地広島に生きる者として、次の世代に確かな「平和のバトン」を渡すために、自分にとっての“平和とは何か”を考えてみましょう。